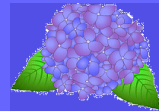


梅雨さなかです。関東地方は晴れ中入り入り雨量も例年より少なめのように感じますが、九州地方では集中豪雨も起きており、自然の気まぐれには人知も及ばず対応には苦慮しますね。また、今月は参院選も控えていてしばらくは、全国で落ちつかない日が続くことでしょう。

東港金属では、このたび新選別ラインを設置し6月23日より稼働いたしました。今まで最終処分場で埋立が必要だった産業廃棄物の8割以上を再利用できると見込んでいます。



発行: 2010.07.01 (月1回予定)

☆羅針盤

鉄・非鉄スクラップ・市況からの7月予測

営業部 Y の考察

- 鉄スクラップ → 考察) 関東湾岸の浜値が下落していることから、国内の高炉・電炉各社は値下げに踏み切ると思われます。
- 銅 → 考察) 欧州の財政問題、欧米景気の先行き不安からこの状態は続くと思われます。
- アルミ → 考察) メーカーはゴーノルデンウイーク後の入荷増から在庫が膨らみ高値買は避けた。7月に関しては横ばい状態と思われます。
- プラスチック → 考察) 原油価格は上昇していたが6月23日には下落。国際情勢安定までは価格は上がると思われはしない。円高の影響もあり、多少下がると思われます。

6月予測の自己評価

|        |   |
|--------|---|
| 鉄スクラップ | ◎ |
| 銅      | ◎ |
| アルミ    | × |
| プラスチック | × |

☆羅針盤

プラスチックリサイクル

プラスチックのリサイクルにはご存知のように三つの手法があります。

- ①マテリアルリサイクル(Mechanical Recycle)
- ②ケミカルリサイクル(Feedstock Recycle)
- ③サーマルリサイクル(Energy Recovery)

まずマテリアルリサイクルですが、これは再生利用を目的とし、プラスチックのまま原料にして再びプラスチック製品として生き返らせる方法です。これらの再生加工品としてはベンチや杭など公園や道路、建築資材に幅広く使われています。

次にケミカルリサイクルですが、これはプラスチックを元の油状や分子レベルに戻し原料として利用したり、製鉄所で鉄を作る過程の還元剤として利用する方法などです。

三番目は、サーマルリサイクルですが、使用済プラスチックを油化やガス化等して熱原料として使ったり、そのまま燃焼して発生する熱エネルギーを回収利用する方法です。

これらのプラスチックリサイクルの今後の方向について述べてみます。

1. マテリアルリサイクル:

廃プラスチックは中間処理後に有価物として国内外へ売却されます。売却価格は、一部国内などのシートメーカーで年間価格を決めているところもありますが、大体は相場変動です。この場合、原油価格・為替に左右されることが多く、そのためリスクもあります。

2. ケミカルリサイクル:

このリサイクルの欠点はなんと言っても、設備費、人件費及びエネルギー代などのコストが高いことです。新品を買うよりも高くなることすらあります。更なる技術開発が必要と思われます。

3. サーマルリサイクル:

プラスチックの発熱量は紙の約2倍あり石炭、石油とほぼ同等であることから、貴重なエネルギー源として有効活用が望まれます。また、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルができない物でもリサイクル原料として活用できるという利点があり、これからは排出物の高いリサイクル率を望む企業にとっては欠かせないリサイクル手法になるものと思えます。

業界情報

廃棄物処理法の改正 ☆羅針盤

- ・ 羅針盤(No.1)で掲載しました「廃棄物の処理及び清掃に関する法律の一部を改正する法律」が第174回通常国会において平成22年5月12日に成立し、同19日に公布されました。
- ・ 改正法は公布の日から1年以内の政令で定める日から施行されることとされています。



さいゆうき

蔡遊記(私の感じた日本)

(隔月連載1)

私は蔡侑辰(さい ゆうしん)と申します。出身は台湾の台中で台湾の中でも住みやすい所といわれています。8年前に留学で来日し、現在は東港金属の営業部に所属しております。今後、このコラムを借りて私が感じている日本についてお話をさせていただこうと思います。

さて、短いと言えば短く、長いと言えば長い8年間でした。同じアジアの国でも民族性や文化に相当な違いがあるので、この間には、面白いことや嫌なことも色々ありました。

日本には留学する前に、何回も観光に来ておりましたが、やはり観光と長期滞在とは随分違うと感じております。

来日の初日から、様々なことに驚かされました。今でも記憶に残っていることの一つを先ずはお話させていただきます。

それは、日本語学校が用意した寮の部屋に入った瞬間、あまりの狭さにびっくりしました。四畳半の空間に二人で一年間暮らさなければいけないと言われた時、すぐこれは有り得ないと思い、学校の先生に相談して、学校からはちょっと離れてしまいましたが大きい学生寮にチェンジすることができました。

ずっと実家暮らしの私にとって、寮での共同生活は、とても新鮮でした。寮は寝室以外、全て共同となっていました。今でも、不思議だと思っているのは、寮の門限は23時だったのに、風呂場の制限時間も23時までなので、ぎりぎり23時に帰ってくる人は、どうすればいいの?とずっと疑問を持っていました(まあ～早めに帰ってこればいいでしょうと思っている人もいるかもしれない・・・)。23時前の風呂場もとても衝撃的でした。混雑の脱衣所、シャワー待ちの列とギュギュンになっているお風呂、皆よく慣れていたなあとも今もそう思っています。そんな生活から社会に出た私を感じた、日本人の台湾とはちょっと違う感覚など、気づいたことを次号からお話させていただきます。(つづく)

(蔡 侑辰 東港金属(株)営業部)